

*****平成21年度のノリ養殖概況*****

浅海干潟研究部 松本 聖治

熊本県は全国でも有数のノリ産地で、約 100 億円の生産額は本県海面漁業生産額の約 4 分の 1 を占める重要な産業ですが、近年はノリ価格の下落や水温の上昇、海の栄養（窒素やリン）の減少などで厳しい状況にあります。平成 21 年度は、平成 12 年度以来となる大規模なノリ色落ち被害が発生しており、その状況も含め概況をお伝えします。

【ノリ網への種付け】ノリの種付け適期はキンモクセイが咲く頃とも言われ、従来、10 月上旬に行われてきたのですが、近年は秋季の水温が以前より 2 前後高くなってきていることから、ここ数年は 10 月中旬以降に種付けを遅らせています。

今漁期も 9 月までは高水温傾向でしたが、10 月に入り台風通過等の影響もあり水温は低下し、10/18 の種付け開始には長洲沖で日平均水温がノリ種付けの適水温である 23 以下となり、良好な採苗を行うことができました。

【育苗】ノリ養殖では網にノリの種を付けた後に、ノリの芽を 3~5cm 程度まで育てる期間を「育苗」と言いますが、近年、この育苗期間に水温が順調に下降せず、逆に上昇することもあり、その後の不作に繋がる原因の一つとなっています。

今漁期は、育苗の後期（10/28~11/1）に水温の上昇による生長の遅れ等が見受けられましたが、概ね健全なノリ網を確保することができました。

【秋芽ノリの生産】有明海の早いところでは 11 月中旬から初摘みが始まり、11 月下旬には全域で収穫が本格化し、平成 21 年度産の新ノリが出荷され始めました。

一方、八代海では 11 月上旬からユーカンピアという大型の植物プランクトンが大増殖して海水中の栄養塩をほとんど消費してしまい、ノリが必要とする栄養塩が海から無くなってしまいう状況に陥りました。そのため、八代海の北西部ではノリの色落ち被害がひどくほとんど生産できず、生産ができた地域でも品質の低下などにより非常に厳しい生産状況となってしまいました。

【冷凍網ノリの生産】ノリには冷凍しても生存できるという特長があり、ノリ養殖ではこの特長を生かして、育苗後の網を -20 程でいったん冷凍保存（冷凍網）しておいて、秋芽ノリの生産が終わった 12 月頃に冷凍網に張り替え、できるだけ品質の良いノリが生産できるようにしています。

有明海の一部では 12 月上旬から冷凍網の張り込みが始まり、12 月下旬には全域で冷凍網の張り込みが完了しました。しかし、冷凍網を張り込んだ直後の 12 月末の寒波で水温が急激に低下し、その後も 1 月中旬まで平年よりかなり低く推移したことからノリ芽の伸長が鈍り、同時期の生産量は平年よりも少なめでした。

さらに、12 月下旬~1 月上旬の降雨量が少なかったこと、小型の植物プランクトンが長期間発生していたことなどから、海水中の栄養塩が徐々に減少し始め、県北や沖合の漁場を中心に色落ち被害が起こり始めました。その後も栄養塩が非常に少ない状態は 2 月上旬まで長期間にわたり継続し、特に県北や沖合の漁場における生産に大きな被害をもたらしました。

また、八代海では 11 月~2 月の間、全域で低栄養塩の状態が継続したため、河川からの栄養塩の供給がある河口域周辺以外の漁場では今漁期はほとんど生産ができないという非常に厳しい漁期となってしまいました。

このようにノリ養殖は海域の環境に大きく左右されるため、水産研究センターでは生産者の皆様への参考となるよう、リアルタイム水温情報（長洲・小島・長浜）やノリ栄養塩情報（漁期中週 1 回）をホームページ等で公開していますので、今後ともご活用ください。